



あおき けい
青木 慶 さん(12区)

農事組合法人アグリ平泉

《Profile》1976年生まれ。アグリ平泉では事務局を務めライス・アート in ひらいずみを手掛ける。またJAいわて平泉青年部協議会平泉青年部委員長を務めるなど地域の農業振興に努めている。

人々の暮らしを支えてきた棚田と遊水地

東稲山麓地域の農業には、山間部分の伝統的な棚田農業と、平場部分の遊水地を活用した大区画水田農業があります。小規模と大規模の農業の組み合わせであり、ギャップも大きいのですが、水害など自然災害のリスクを分散させるため、昔からこの農業システムが営まれており、棚田と遊水地が人々の暮らしを支えてきました。

遊水地内において農事組合法人アグリ平泉では、稲の葉や穂の色の違いを利用して巨大な絵を田んぼに描く「ライス・アート in ひらいずみ」を2009年から開催しています。田植えや稲刈りの体験を通じて、農業を身近に感じてもらい、この地域には確かに農業が根付いていることを実感してもらいたいです。



2016年度ライス・アート in ひらいずみ

世界農業遺産認定に向けた取り組みが、東稲山麓地域の農業の素晴らしさを再認識するきっかけとなり、地域の良さをみんなで共有していければと思います。

東稲の風と北上の流れとともに育つ貴重な風土

地域住民にとっては日常の出来事、いつもと変わらない風景と感ずるため、東稲山麓地域の魅力がなかなか伝わらないかもしれません。しかし首都圏などさまざまな人たちと交流していくと、この地域のすばらしさに気付かされます。民家には昔ながらの竹まいがあり、四季折々の田んぼや木々などが見える景色。近代化の進む日本では、これらの農村景観はとも価値があり、日本人の心の中にある原風景なのです。

そして地元の人たちがきちんと「この地域の良さ」を認識することで、地域に対して自信と誇りを持つことができます。世界農業遺産に登録された際には、国内だけでなく、海外にも情報発信されるため、地域への定住化や新規就農にもつながっていくと思います。



美しい棚田がいくつも存在する長島地区

「素晴らしい地域で生まれ育った」という気持ちを持ち、これからもみんなで助け合い、世界農業遺産登録に向けて協力していきたいです。



まる やま やす し
丸山安四 さん(20区)

20区地域資源保全会 代表

《Profile》1934年生まれ。過去に県農業改良普及センター、県庁農政部などで県内の農業振興に努める。水田のほか、トマトや黄金メロンのハウス栽培をしている。



希少な農業スタイルが営まれる東稲山麓地域

棚田農業やリンゴなどの果樹の栽培が継続して営まれてきました。その結果、東稲山麓地域の農業は伝統的な棚田農業と国内屈指の規模を誇る遊水地を活用した大区画水田農業を組み合わせたことで水害リスクを分散させるという全国的にも希少な農業スタイルとなりました。

この農業スタイルは、発展途上国が今後農業施策を展開するうえでモデルとなり得るとともに、発展途上国の農業資源の保全という世界農業遺産創設の趣旨に沿うものであることから、世界農業遺産にふさわしいと考えられます。

今回、地域、生物、農業、歴史などの視点から、東稲山麓地域が持つ価値について4人に話を伺いました。

第2章

東稲山麓地域の価値

世界農業遺産の話をするとなぜ東稲山麓地域なのか？「地域の相対的な価値が分からない」などの声がよく聞こえます。

私たちの身近に存在する東稲山麓。その価値を探ります。

東稲山麓地域の特徴

東稲山は、西行法師が「聞きもせず東稲山の桜花吉野のほかにかかるべし」と詠んだ有名な場所であり、数多くの文人墨客の詩歌の作品に登場します。また長島字月館地区には、平安後期の奥州藤原氏時代に作られたとみられる石仏「オダイシマ」があるなど、東稲山麓地域は平泉文化が薫る古い歴史を持つ場所です。

そしてこの地域の農業は、北上川の氾濫と戦いながら営まれてきました。一閑遊水地の規模は国内第2位であり、平常時、地内を農地利用している遊水地としては国内最大級となります。遊水地は大区画化により大規模な農業が展開できますが、常に水害のリスクが伴います。そのためリスク回避のため、すぐそばの山手側においては伝統的な

人々の信仰の対象となっていた東稲山

東稲山は平泉に直面していることから、山そのものに対する神秘性を持ち合わせており、昔から人々の信仰の対象になっていったと思います。そして長島地区にはオダイシマや石塔など平安後期(12世紀)の奥州藤原氏時代とみられる作品が残っており、平泉地区だけでなく、川を越えた長島地区も含めて信仰の拠点となっていたと考えられます。

また東稲山麓地域では、昔から郷土芸能が盛んに行われていました。長島地区には「田頭讃念仏」「行山流長部鹿踊り」「長部神楽」があり、それぞれ町の無形民俗文化財に指定されています。郷土芸能と農業にはとても密接なつながりがあり、五穀豊穡を願うといった意味が込められた郷土芸能の踊りもあります。土地を改良し農業が発展していくと同時に、多くの郷土芸能も生まれていきました。東稲山麓地域は歴史的にみてとても価値がある、面白い地域だと思います。



平泉の対面に存在している東稲山

東稲山麓地域は生物多様性に富んだ地域

東稲山麓地域は里山であり、原生林と比べると生物多様性に富んだすばらしい地域です。西行桜の森から周囲の景色を見ると、田んぼや山林、川、池など多様な環境があることがわかります。そしてそれらの環境は生物の多様性につながっています。

例えば田んぼにはクモやカエルなどがおり、食物連鎖によってさまざまな生き物がつながり、支え合って生きています。しかし人間が営農しなくなり、耕作放棄地が増えていくと、田んぼの環境が維持できなくなってしまいます。すると田んぼに生息していた生き物たちがいなくなり、食物連鎖が成り立たなくなることで、生態系のバランスが崩れ、生物の多様性が失われてしまいます。



11月12日に開催された西行桜の森動植物観察会

地域の人たちが昔から守ってきた美しい里山の環境を今後も保全していくためには、引き続き農林業を営むなど、人間が積極的に自然に関わっていくことが大切です。



あ べ け い げ ん
阿部慶元 さん(13区)

東稲山桜情景復活検討協議会長

《Profile》1950年生まれ。東稲山桜情景復活検討協議会長、東稲山桜の会副会長を務め、普段は環境調査などを行っている。町内で唯一の岩手県環境アドバイザーであり、環境保全に詳しい。